

# 「命の櫛」たすき

広島県 薬師寺住職 やくしじ 井上光由 いのうえこうゆう

私たちは、どうしてご先祖さまの供養をするのでしょうか。それは「人が恩を感じて、供養することができる生き物」だからです。私たちの誰しにもご先祖さまは存在し、十代遡ると千人を超える多くのご先祖様がいらっしやいます。

そのご先祖さまとの繋がりを一本の木にたとえると、根がご先祖さま、幹と枝葉が私たちです。根が土の中の養分を吸収し、幹や枝葉はその養分を頂いて育ちます。しっかりした根であれば、たとえ強風が吹いても倒れません。ご先祖様は、根として私たちを支えてくださる大きな存在であり、根であるご先祖さまから命をいただいて今を生かされているのです。

その命の繋がりは、まるで駅伝の櫛のようだと思います。快調なペースで思い通りの走りをする選手がいれば、予期せぬ天候の影響などで、思い通りの走りができない選手もいます。それでも選手たちは「少しでも前へ」と、懸命に自分の区間を走り抜き倒れ込むように、中継点で次の選手へと櫛を繋いで行きます

生きていれば、楽しいことも嬉しいことも沢山あります。しかし病にかかって苦しんだり、親族や両親、友人とのお別れなど、辛い事も少なからずあります。ご先祖さまは苦しい人生の中にあっても、懸命に生きて命を子孫に繋いできたのです。ご先祖様の誰かが、命の櫛を繋げなかったら、今、私たちはここに存在していません。

そのようにしてご先祖さまが苦勞して繋いできた命なのですから、私達は自分自身を大切にしなければなりません。そして、苦勞しながら命を繋いでくださったご先祖さまのご恩を偲び、ご仏壇に手を合わせ感謝することが、ご先祖さまの最も喜ばれることだと思います。